

令和七年度  
個別学力検査

国  
語

注意事項

- 1 試験開始の合図があるまで、この問題冊子を開いてはいけません。
- 2 この冊子は、二十二ページあります。
- 3 試験開始後、すべての解答用紙に氏名(カタカナ)及び受験番号を記入しなさい。受験番号が正しく記入されていない場合は、採点できないことがあります。また、氏名(カタカナ)及び受験番号以外の文字、数字などは、絶対に記入してはいけません。
- 4 解答は、すべて解答用紙に記入しなさい。解答用紙は一枚です。
- 5 この冊子は、試験終了後持ち帰りなさい。

令和7年度個別学力検査

人文社会学部 前期日程

国 語 問 題

名古屋市立大学 学生課入試係 052-853-8020

許可なしに転載、複製  
することを禁じます。

# 問題訂正

科目名： 国語

〈訂正一〉

一 四ページ 右から五行目

(誤) 小田野直武が、<sup>(注五)</sup> 原本の「ターヘル…

(正) 小田野直武が、<sup>(注五)</sup> 「ターヘル…

〈訂正二〉

二 一〇ページ 本文右から五行目

(誤) Jakobson

(正) Jakobson

一

次の文章を読み、後の問いに答えなさい。

著作権の関係上、掲載していません。

著作権の関係上、掲載していません。

著作権の関係上、掲載していません。

著作権の関係上、掲載していません。

著作権の関係上、掲載していません。

著作権の関係上、掲載していません。

(成相肇)『芸術のわるさ コピー、パロディ、キツチユ、悪』にもとづく

注

- (一) クロード・レヴィ・ストロース(一九〇八—二〇〇九)はフランスの人類学者。
- (二) ミシェル・ド・モンテーニュ(一五三三—一五九二)はフランスの哲学者。
- (三) モンテーニュ、宮下志朗訳『エッセー 2』にもとづく。
- (四) 『解体新書』は一七七四年に日本で発行された解剖学書。
- (五) 小田野直武(一七五〇—一七八〇)は日本の画家。
- (六) ファン・ワルエルダ・デ・アムスコ(一五二五頃—一五八八頃)はスペインの解剖学者。
- (七) 杉田玄白(一七三三—一八一七)は日本の蘭学者。
- (八) 前野良沢(一七三三—一八〇三)は日本の蘭学者。
- (九) 大槻玄沢(一七五七—一八二七)は日本の蘭学者。
- (一〇) 石川大浪(一七六二—一八一八)は日本の画家。
- (一一) 本草学は中国で発達した薬物学。
- (一二) 傳田光洋『皮膚は考える』にもとづく。

問一 傍線部①～⑤の片仮名を漢字にあらためなさい。

問二 空欄A・Bに当てはまる語を文中より抜き出しなさい。

問三 傍線部(ア)に「ひいては人々の思考をも含む文化的変容をもたらす」とあるが、ここでいう「文化的変容」とはどのようなことを指すのか、説明しなさい。

問四 傍線部(イ)とはどのような意味か、説明しなさい。

問五 傍線部(ウ)について、次の問いに答えなさい。

〔一〕「毒とも薬ともわからないものをまず嘗めてみることを勇気だと思ってるうち、ほんらはほんらのままであるとはどのような意味か、説明しなさい。

〔二〕「ほんらのままであることが何をもちたらすのか、説明しなさい。

問六 筆者は病氣、身体、健康の相互作用をどのようにとらえているか、説明しなさい。

二

次の文章を読み、後の問いに答えなさい。

著作権の関係上、掲載していません。

(中村桃子『翻訳がつくる日本語——ヒロインは「女ことば」を話し続ける』にもとづく)

注

ここでは、男性(あるいは男性らしさが強いキャラクター等)が用いる場合が多いと指摘される文末表現「さ」、「か  
い」、「〜だい」を指す。

問一 空欄A・Bにふさわしい語の組み合わせを①～⑤から一つ選びなさい。

- ① A 創出する / B 他者
- ② A 再定義する / B 自己
- ③ A 組み立てる / B 日本人
- ④ A 再定義する / B 他者
- ⑤ A 組み立てる / B 非日本人

問二 傍線部(ア)に説明されている「す」について次の質問に答えなさい。

〔一〕 「す」を新敬語だとする根拠が述べられている段落の冒頭五字を抜き出さない(記号・句読点も一字に含める)。

〔二〕 「す」が出現した背景には、敬語の機能がどう変化したことに関係すると筆者は述べているか説明しなさい。

問三 傍線部(イ)「新男ことば」と、傍線部(ウ)「翻訳版・気さくな男ことば」の相違点として筆者が捉えていることを簡潔に説明しなさい。

問四 「翻訳版・気さくな男ことば」を、傍線部(エ)の観点から考えたときの影響について筆者はどうか捉えているか説明しなさい。

問五 「翻訳版・気さくな男ことば」を、筆者が傍線部(オ)のように捉えている理由を説明しなさい。

三

次の文章を読み、後の問いに答えなさい。

著作権の関係上、掲載していません。

注

- (一) 「暮山雪」は歌題。「暮山の雪」と読む。
- (二) 「行雲廻雪の体」は和歌の一体。幽玄体に属するもの。
- (三) 「飄白」は漂い歩くこと。

問一 文中の波線部①、③を、現代語訳しなさい。

- ① それはうたてかるべきなり
- ② なにとなくおもしろくえんなる物なり
- ③ さすがに物思ひるたる気色はしるきなり

問二 傍線部「雲が跡なき雪を渡りかぬる」という表現に対する正徹の考えを本文に即して説明しなさい。

問三 空欄 A に当てはまる語句を本文から過不足なく抜き出しなさい。

問四 空欄 B に当てはまる語句としてもっとも適切なものを次の選択肢ア～オの中から選び、記号で答えなさい。

- ア いひあらはし
- イ いひかはし
- ウ いひつくし
- エ いひのこし
- オ いひまはし